RUN伴 このまちで仲間とともに歩みたい

RUN TOMO-RROW 2016 ～HOKKAIDO to OKINAWA 6500km～

NPO認知症フレンドシップクラブ主催のRUN伴(ラントモ)が、泉南市は10月2日に行われました。北海道北見(7月スタート)から沖縄(11月末ゴール)を、認知症啓発をしながら襷をつなぐという取り組みです。

野上病院有志メンバーとグループホーム平和苑の利用者様・ご家族様とスタッフが南大阪本線ルートに参加しました！泉南市は岬町～阪南市からたすきを受け、午前11時スタートし、team野上病院ホップ・ステップ・ランニング（11名）・チーム平和苑が泉南市長へ襷をつなぎました。泉南市は「忘れても大丈夫、安心と思いやりの町、泉南」のキャッチフレーズで認知症施策を推進しており、泉南市長も3年連続で走って下さいました。認知症は誰もがなり得る病気です。まだまだ認知症という病気に偏見があり、認知症の方も介護するご家族も辛い思いをされています。「認知症になっても、このまちで、仲間とともに、歩みたい」という認知症の方々の思いを一人でも多くの方々へお伝えできればと思います。

阪南市から泉南市へ

岸さんが一人で阪南市から泉南市役所まで襷を運んでくれました。チーム平和苑の襷は、泉南市各事業所を回ってきた泉南市独自の襷です。今年は泌尿器科の梅原医師が参加され大いにteam野上病院ホップ・ステップ・ランニングは盛り上がっていました。

泉南市から

平和苑スタート

泉南市役所では、やぐらパレード開始直前でたくさんの人が来ておられ、会場内でRUN伴の紹介が放送されました。平和苑利用者様から、泉南市竹中市長へ襷が渡され、市長も一緒に走ってくれました。

新しい仲間が増え、思いを共有出来たことが嬉しいです。啓発活動ですが、なかなか思うように進まないのが現状です。たとえ、お一人でも認知症への理解を深めていただき、誰もがなり得る病気だと、ジブンゴトとして捉えていただきたい。そして困っている人がいれば、やさしく声かけ合いが出来る、そんな思いやりいっぱいの泉南市になってほしいと思います。

田尻町へ

田尻町へ襷をつなぐ梅原医師!

マーブルビーチ･マリンブリッジを越えて

促通反復療法

当院のリハビリでは、入院患者様をはじめ、外来・通所リハビリの患者様に対して、鹿児島大学名誉教授である川平和美先生によって考案された『**促通反復療法**（川平法）』（以下、促通反復療法）を提供しています。

現在、促通反復療法はテレビや新聞などでも話題となり、多くの文献も出版されています。脳卒中ガイドライン2015では「麻痺が軽度から中等度の患者に対して、特定の動作の反復を伴った訓練（促通反復療法など）を行う事が勧められる（グレードB）」と推奨されています。

当院には鹿児島大学病院霧島リハビリテーションセンターで促通反復療法の研修会を受講し、川平先生から直接、理論や手技について学んだリハビリスタッフが在籍しています。

促通反復療法とは、脳卒中後遺症などの麻痺症状に対し、各関節運動に対して一定回数（100回以上）を促通しながら繰り返し運動を行うことによって、運動に必要な神経回路を再建・強化し、自らの意思による運動を実現するための治療手技です。特に、脳卒中や脊髄損傷等による上下肢、手指の麻痺に有効とされ、促通反復療法と電気刺激療法・振動刺激療法等の併用によって、急性期・回復期の対象者はもちろんのこと、回復されにくいとされていた時期（発症より6ヶ月以降）の対象者にも効果が期待されています。

研修を受講したスタッフが、当院のリハビリスタッフに対して促通反復療法の理論・手技の伝達講習を実施、多くのセラピストが日々の治療において実践しています。

また、促通反復療法と併用する事で治療法効果が高まるとされている電気刺激療法や振動刺激療法に必要な備品も導入し、当院でも促通反復療法と併用して行える環境になっています。病院でリハビリスタッフが治療を提供するだけでなく、ご自宅でも出来るように、自主練習やご家族様が行うリハビリなどもお伝いしています。

これからも、当院リハビリテーション部は、多くの患者様が機能を改善できるよう、様々な理論や手技を学び、実践していきます

作業療法士　古谷　隆明

ノロウイルスにご注意ください

ノロウイルスは毎年11～1月に流行する、感染性胃腸炎の原因となるウイルス。

予防方法

1 手洗いをしっかり行いましょう!!
2 食品はしっかり加熱して!!
3 キッチンや調理器具の消毒!!
4 頻繁に手で触れるものを清潔に保つ!!

野上病院感染防止対策チーム